

積み重ね つみ重ねても またつみかさね

令和4年3月18日 No. 53 文責：佐野紳二

祝・卒業 夢に向かって、一歩ずつ

今日、3月18日は橿形北小学校の第63回卒業証書授与式。39名の6年生の新たな旅立ちの第一歩となる日です。6年生の皆さん、そして保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。



私が6年生の皆さんに初めて会ったのは、今からおよそ1年前の4月5日、翌日に控えた入学式前日の準備の日でした。体育館に集まり、担任の齊藤先生の話や皆さんの表情は真剣そのもので、「今日から橿形北小の最上級生として、私たちが学校を引っ張っていくんだ！」という決意が表れていました。そのあと行われた会場や教室の準備でも、きれいな環境で1年生を迎えようと、全員が一生懸命作業に取り組む姿がとても印象的でした。「北小の6年生、なかなかやるな！」というのが私の第一印象でした。

その後、学校生活が始まってからも、私の印象はほとんど変わることはありませんでした。新型コロナウイルス感染症の第5波、第6波の影響もあり、今年は昨年度同様（あるいは昨年度以上に）学校でも諸活動を延期したり、制限したりしなければならない場面が数多くありましたが、そんな中でも「**私たちは、私たちが今できる最善のことを、精一杯やろう！**」と、いつも明るく、前向きに取り組む皆さんの姿は感動的でした。

1年生を迎える会では、スライドを使いながら1年生全員にインタビューをして、1年生の紹介をしてくれました。この時、全員に渡した手作りのペンダント。きっと1年生は嬉しかったと思います。

「**全校で育てよう！豊かな心**」をテーマに取り組んだ児童会活動。5月に行われた児童総会では、「**明るく・笑顔であいさつ運動**」「**気持ちをつなげるたてわり班活動**」「**みんなが笑顔になるためのクリーン活動**」「**笑顔の花を咲かせようチャレンジ活動**」の4つの柱を全校に提案し、笑顔の花があふれる学校づくりを目指してさまざまな活動に取り組みました。全校が一堂に会しての活動はなかなかできませんでしたが、コロナの感染状況が落ち着いた12月には、昨年度は実施することができなかった「北小オリンピック」を実施し、たてわり班での交流を深めることができました。バースデー活動ではお誕生日の放送、シールのプレゼントに加え、掲示物での紹介を行い、全校の一人一人を大切に温かい心を育ててくれました。オンラインでの児童総会やクロムブックを使って作成した児童会だよりは、新たな児童会活動の進め方を全校に示してくれる、貴重な取り組みでした。新児童会にも、今年の児童会の取組がよい参考になることでしょう。

親睦球技会で見せてくれたチームワーク、失敗しても「ドンマイ」「次、がんばろう」と声をかける前向きな姿勢や、対戦相手にも拍手を送る態度は、大変すがすがしいものでした。運動会の組立体操で見せてくれた真剣な眼差し、息の合った演技。感染症対策のために2人以上の技ができない中でしたが、例年と比較しても全く遜色のない素晴らしい演技でした。陸上記録会では種目ごとに自主的に練習に取り組み、一人一人が自分の限界に挑みました。楡形地区の4校が集まった記録会でも、多くの方が素晴らしい記録と結果を残すことができました。忙しい中取り組んだドレミファ発表会の練習。当日は大曲「木星」で、体育館中に見事なハーモニーを響かせてくれました。全校合奏の「紅蓮華」と「プリテンダー」の演奏も、大変素晴らしいものでした。どの活動でも6年生の持つ素晴らしさが存分に発揮され、素晴らしい成果を残してくれました。



何度か行き先が変更になり、やっと実施することができた2泊3日の修学旅行。初めての宿泊行事でも、皆さんは仲間と声をかけ合い、時間を守って行動すること、真剣に学習すること、仲間を思いやって活動を進めることをしっかりやり通すことができました。黒部ダムや松本城、富士樹海ガイドツアーでは説明をしてくださる方の話にしっかり耳を傾け、学ぶ姿を見せてくれました。最後に行った富士急ハイランドで見せてくれた一人一人のきらめくような笑顔は、今でも私の心にはっきりと残っています。

一昨年の3月以来、新型コロナウイルスの感染症の感染拡大は私たちの生活に大きな影響を与えました。それまで「当たり前」だったことが当たり前ではなくなり、多くのことを自粛し、制限を余儀なくされる生活が今も続いています。しかし、そんな中でも皆さんは、「コロナだからできなくても仕方ない」ではなく、**「コロナがある中でも、何ができるか」**を常に考え、**「自分たちができる精一杯のこと」**を実行してくれました。この1年間、皆さんが見せてくれた姿は、必ず「コロナ後の新しい学校生活の在り方」を考える上で大きな財産となり得ると、私は確信しています。



皆さんがこれから生きていく21世紀の未来は、「予測困難な時代」だと言われています。コンピュータやICT技術が飛躍的に発展し、社会の在り方や仕事の仕方などが次々と大きく変化しています。そんな中をしなやかに、逞しく生き抜いていくためには「情報収集力」「状況把握力」「意思決定力」「実行力」などが必要だと言われています。この2年間、皆さんが経験した「コロナ禍」という状況も、まさしく「予測困難な出来事」だったと言えます。そして、そうした状況にも下を向くことなく、常に前を向いて「何ができるか」を考えてきたみなさんの

今年1年間は、きっとこれから訪れる「予測困難な時代」を生き抜くために、きっと役立つものになるはずです。この2年間で、「コロナのためにいろいろなことができなかった残念な2年間」と考えるのではなく、「コロナ禍の中でも、自分たちにできることに精一杯取り組んだ最高の2年間」だと考えてもらっていいと思います。6年生の今年1年間の頑張りに対し、心からの賞賛と大きな拍手を送ります。

卒業式での、私からの「はなむけの言葉」の一部を掲載します。

先ほど、卒業証書を授与する際に、一人一人が自分の将来の夢について語ってくれました。夢を持ち、それに向かい努力することは、自分を成長させることにつながります。ぜひ、それぞれの夢を大切にしてください。そして、自分の夢に一步でも近づけるよう、日々の努力を重ねていってください。きっとあなたの周りにはいる人たちが、夢に向かって進んでいくあなたの歩みを支え、励ましてくれることでしょう。でも、自分の夢を実現させるためには、自分の足で一步一步、歩いていくよりほか方法はないのです。

これから皆さんが出ていく広い世界には、たくさんの方がいます。今まで自信を持っていた分野で、自分よりも優れた人がいることを目の当たりにすることもあるでしょう。どんなに努力しても届かない、そんなもどかしさを感じることもあるかも知れません。場合によっては、その夢を諦めなければならないことがあるかもしれません。

では、一つの夢がかなえられなければ、すべてがダメなのでしょう。決してそうではない、と私は思います。たとえ、一つの夢が実現できなかったとしても、そのことに真剣に打ち込んだことにより、きっとあなたは人として大きく成長することができるはずです。そしてその経験があるからこそ、他の様々な可能性にも挑戦して頑張ることができ、さらに人間としての深みが増すのだと私は考えています。そして、その頑張りの先には、きっと新たな夢があなたを待っています。

私の好きなアンパンマンの作者、やなせたかしさんは、その著書の中で、

夢を実現することだけが人生の目的ではない。

夢に向かって一歩ずつ一歩ずつ、

進もうとするその力が尊いのだ。

と述べています。私もそう思います。人生の中に、無駄な経験は何一つありません。失敗することを恐れず、自分の夢に向かって挑戦を続けていってください。そんな皆さんのことを、私たちはいつまでも見守り、応援しています。



今年1年間、皆さんと一緒に学校生活を送ることができてとてもよかったです。素晴らしい1年をありがとうございました。中学校でも、皆さんの「よさ」を存分に発揮し、活躍されることを期待しています。

最後に、私が一番好きな谷川俊太郎さんの詩をみなさんへのプレゼントとして贈ります。〇〇年以上前に皆さんの担任の齊藤千帆先生と一緒に群読をした、私にとって非常に思い出深い詩です。

歩くうた

谷川俊太郎

ひとは歩く	ひとは歩く
てくてく歩く	すたすた歩く
ひとは歩く	ひとは歩く
のそのそ歩く	とぼとぼ歩く
ひとは歩く	ひとは歩く
ぶらぶら歩く	のしのし歩く
ひとは歩く	ひとは歩く
道がなくても	扉を開けて
ひとは歩く	ひとは歩く
砂漠をこえて	錠を壊して
ひとは歩く	ひとは歩く
よそ見しながら	壁をつきぬけ
ひとは歩く	ひとは歩く
好きなほうへ	大地を踏んで
ひとは歩く	ひとは歩く
今日から明日へ	国境をこえて
ひとは歩く	ひとは歩く
自分の足で	ひとを助けて
ひとには歩く自由がある	ひとには歩く自由がある

夢に向かって、一步一步、あゆみ続けていってください。

